



昭和中だより ハートフル昭和

<http://www.city.akishima.ed.jp/~showa/>



令和6年7月1日

第4号

昭島市立昭和中学校
校長 渡部 尚

平凡であることの幸せ

今から30年ほど前、上京していた私に、母親がある本を送ってきました。たしか電話で、「体育の先生を目指すなら、この人（作者）を知っておきなさいよ」ということを言われた記憶が残っています。

送られてきた本は花の詩画集で、作者は詩人であり画家でもある星野富弘さんという方でした。

星野さんは、元は中学校の保健体育の先生でした。しかし、不慮の事故で手足の自由を失ってしまい、その後は僅かに動く口に筆をくわえて詩画を描き続け、多くの方々に希望を与えていた方です。

当時の私は彼のことをよく知らないまま本を開いたのですが、淡くも繊細なタッチで描かれた草花に、日々感じたことをストレートに表現した詩が添えられていて、とても筆を口にくわえて描いたとは思えない作品の数々に衝撃を受けました。

彼の作品の中に、「日日草（にちにちそう）」というものがあります。私がお気に入りの作品です。日日草の花言葉は、「優しさ」「生涯の友情」「楽しい思い出」なのですが、彼は詩でこのように表現しています。



今日も一つ 悲しいことがあった 今日もまた一つ うれしいことがあった
笑ったり 泣いたり 望んだり あきらめたり にくんだり 愛したり ……
そして これらの一つ一つを 柔らかく包んでくれた
数え切れないほど沢山の 平凡なことがあった

星野富弘著 花の詩画集「鈴の鳴る道」より

この詩からは、「嬉しいことや悲しいことがあったり、笑ったり、泣いたりすること」は、生きている証であること。「数えきれないほど沢山の平凡なこと」からは、良いことばかりじゃなくても、そんな日常こそ幸せであるということ。そして、一日一日を大切に生きること……。そんなことに気付かされました。

この作品に表わされるように、星野さんの生き方と考え方は、私の価値観やものの見方に影響を与えてくれた、まさに「道しるべ」となっていました。多くの子供たちにも、彼の作品に触れてほしいと思います。

多くの作品を残してくださった星野さんは、今年の4月28日に78年の生涯を終えられました。彼が残した作品はこれからも生き続け、この先も変わらず人々の心を優しく照らしてくれることでしょう。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

★キラリ輝く★ 学校生活のひとコマ

6 / 1 (土) 体育祭、熱い声援をありがとうございました！



7月 行事予定

日	曜	学校行事	日	曜	学校行事
1	月	生徒会朝礼 性についての講演会（2）	17	水	専門・中央委員会（9月用）
2	火		18	木	学年集会 大掃除
3	水	職員会議	19	金	終業式
4	木		20	土	
5	金	第1回進路説明会・修学旅行保護者説明会（3）	21	日	
6	土		22	月	夏季休業日（始）
7	日		23	火	
8	月	三者面談（始）	24	水	
9	火		25	木	
10	水		26	金	
11	木		27	土	
12	金	三者面談（終）	28	日	
13	土		29	月	
14	日		30	火	
15	月	海の日	31	水	
16	火				

<来月の予定>

8 / 13 (火) ~ 16 (金) は、昭島市指定の学校閉庁日となります。

8 / 30 (金) 始業式

<お知らせ>

● 心温まるお手紙をいただきました

先日、学校トイレの清掃に来られていた方（O様、6 / 20 でご退職）からお手紙をいただきました。

内容は、O様は体調の関係で手術を受けることになり、不安を抱えたまま6月19日の最後の勤務に望まれていたところ、生徒から「きれいにしてくださってありがとうございます」「お仕事がんばってください」などと声を掛けられ、心に虹がかかったように嬉しく、泣きそうになってしまいました、というものでした。

結びに、「先生方も生徒さんもどうぞお元気で」「私も手術を受けて元気になります」と書かれていました。

お世話になっている方に感謝を伝え、人を勇気づけられる生徒たちを誇りに思うとともに、このことをお伝えいただいたO様のお心遣いにも敬服しました。O様の体調が回復され、元気になられることを心よりお祈り致します。